

平成 18 年度合同総会・講演会・懇親会次第

三同窓会最終個別総会

(15:00~15:30)

横浜応化会総会
横浜電化材化会総会
横国化学会総会

合同総会議事次第

(15:30~16:30)

司 会

關 金一

三同窓会会長代表挨拶

横浜電化材化会会長

米屋 勝利

議 事 1. 三会一体化の要点

關 金一

2. 新同窓会会則

横山 幸男

3. 三同窓会保有財産の取り扱い

榊原 和久

4. 新同窓会役員 の提案と承認

米屋 勝利

*新会長に横浜応化会会長樋口修一郎氏承認される

5. 新役員紹介

關 金一

6. 新会長挨拶・2 ヶ年事業基本計画

樋口修一郎

統合記念講演会

(16:30~17:15)

— 国大の未来像を考える —

国立大学法人横浜国立大学学長

飯田 嘉宏 様

三同窓会合同懇親会次第

(17:30~19:00)

司 会

細田 尚也

1. 国大化学会 新会長挨拶

樋口修一郎

2. 来賓紹介

3. 来賓挨拶

横浜国立大学工学研究院長

國分 泰雄 様

財団法人 横浜工業会常務理事

山口 惇 様

生産工学科同窓会会長

横浜国立大学学長

飯田 嘉宏 様

4. 乾杯

5. 懇談

6. 閉会の辞

国大の将来像を考える*

横浜国立大学長 飯田 嘉宏

飯田先生ははじめに我々向けのメッセージとして次のような趣旨のお話をされ、それから本題に入られました。

工学部化学系の3同窓会が来春統合の運びになったことにお祝いを申し上げます。工学部や全学の同窓会の発展にとっても喜ばしいことだと考えています。化学系は学术界や工業会にたくさんの有為な人材を輩出されて来られました。例えば、光触媒の藤嶋昭先生を始め、枚挙に暇がないほどです。なぜそうなったのかを考えると、これからの大学教育を考える参考になるのではないかと思うほどです。

さて、本学は法人化して2年半経ちましたが、卒業生の方たちがこれに対して深くご関心を持ってくださっており、多くの方々から現在の状況やこれからどうなるか、といったご質問をいただいております。大変ありがたいことだと思っております。そこでこの度は、法人化のことから始まって、目指すべき将来像、そして問題点等をお話したいと思います。

(1) 法人化で、目指す方向が焦点に

先ず、国立大学法人化とはどんなことから、お話ししましょう。

一言で申しますと、それぞれ大学が自主的・自律的に経営し、責任も自分で取れということでございます。

これまでの国立大学は、いわば護送船団方式、つまり文部省の指揮の下、全国立大学が船団を組んで同じ方向に進んでいた。だから横浜国大丸も、どちらに行こうか、つまり目指す方向など考える必要はなく、乗組員は隣の船に衝突しない程度にそれぞれ呑気に各自の教育研究さえしていれば良かった。しかしこれからは、それぞれ一隻で航海する、あとは乗組員の智恵と努力次第で、素晴らしい港に着くこともあれば座礁して沈没することもある、という訳であります。しかも予算面などで、今までは考えられないくらいの荒海が相手です。従って今求められているのは、この環境の中で、どちらの方向に国大丸を進ませるのか、つまり国大の将来像や存在意義、特徴・個性をどうするのか肝心で、今日のテーマでもございます。

それでは何故航海の仕方が変わったのか、その理由を良く理解しておくことが、進路を決めるために重要です。

その理由は、構造的な要因です。つまり、社会の価値



観や在り方がすっかり変わってきている。価値観は「量から質へ」、「均一から多様へ」など180度近く変わった。産業の構造も変わった。また大学で育成する人材像も、「真面目で素直」から「主張する個性派」になったなど大きく変わったことであります。教育についても、欧米の考え方や技術を教育の目標としての明治以来のものでしたが、我が国がトップランナーになった現在、自ら新しい目標を作っていくような人材が求められているのです。

また進む方向を決めるに当たっては、先に述べた法人化なる制度変更や、競争的社会やグローバル化時代の到来、我が国の財政事情などを考えねばなりません。例えば、800兆円に上る借金財政の現状や最近の市場原理の考えから、国立大学に大きな資金を提供する意味を多くの国会議員その他から問われております。さらに、各大学の教育研究の質が問われているのです。

一方、21世紀は知識基盤社会ですから、知の創造と継承を責務とする大学への社会からの期待が高まっております。それに応える必要があります。従ってこれらに依りて、大学は教育研究の内容や方法を含めて、中から変わると共に、外にも備えていかなければなりません。つまり、大学は、その各組織や各先生も含め、それぞれ目標を立て、ミッションを自覚して改まり変わっていく、つまり改革が不可欠であります。

(2) 改革とは何か

ここで改革とは何かを考えましょう。現在の我が国では、従来のものを壊して新しいものにする、との考えがもっぱらですが、もう一つの考えもあります。それは、従来のシステムの中から良いものを選び出し、その効力

* 本稿は平成18年11月4日総会の前に行なわれた学長の飯田嘉宏先生のご講演を記事にさせていただいたものです。

を最大にするというものです。実はローマ帝国が1000年以上続いたのは、この考え方ですべて改革していったからだと言われており、組織の中に既に文化としてあるもの故、成功の可能性が大なことが特徴です。

(3) 本学の良いところを選び出す

そこで、本学の歴史と現状の中から、良いところは何かを検討して方向を探ってみたいと思います。

- 1) 一番目として、先ず、実学を重んじた歴史的背景がございませう。

師範学校、横浜高商、横浜高等工業も、現在の学部構成も、本学は実学で構成されており、密度の高い教育によって、社会の中核となって働き信頼される人材を輩出させ高い評価を受けてきた。この特徴ある実践的教育の現代版を再現することが第一と考えます。

- 2) 次に研究上では、新制大学として全国で初めての大学院が設置された。また同じく初めての大学院部局化認定など、旧制大学に次ぐ高い評価。…これを堅持したいと考えます。

- 3) 3番目として、自由な学風があります。

文明開化発祥の地で世界に開かれ、高度産業地区の横浜で生まれ育った。本学には妙な権威や伝統が少なく自由で進取の学風がある。教育研究には自由が大切です。勿論責任を伴う自由ですが、これを是非大切にしたい。

- 4) 4番目として、「地の利」がある。

高度産業地区の中心という「地の利」があります。そして県内唯一の国立として、地域貢献が重要です。今まで教員の目はバラバラに東京に向き勝ちでありましたが、今後はアイデンティティーを共有して大学ナショナリズムを育て、組織的に地域に目を向けたい。

- 5) 5番目として、中規模大学を長所としたい。

マスコミ等による大学評価では、スケール効果を含めた合計値によることが多く、密度は高いが合計値は大きくなりえない中規模大学としては歯ざしりしていますが、中規模しか出来ない機動力を発揮してむしろ長所としたい。つまり、自由な学風と併せて、部局間・専門分野を越えた複合型や文理融合型プロジェクト研究を重視して、現在社会が抱える複雑な諸問題に実践的に対応したいと考えています。

- 6) さらに、これまでも本学の将来像に関して示されたものがあります。

それは本学教育研究の精神として、実践性・先進性・開放性・国際性が挙げられており、それに基づき、法人化時に「大学憲章」を制定しました。配付した資料の片面に記されていますのでご覧下さい。〔大学のホームページに記載〕。この憲章の下、本学の中期目標・計画が立てられ、現在ほぼ順調に進行中でございます。外部の評価委員会からも、そのように評価されています。

(4) 本学の目指す方向

さて、以上の議論を受けて、本学の目指す方向、つまり目標を、キーワード等で判りやすく示そうとしたのが、資料片面の「横浜国立大学の目標と目標達成のための指針」です。本学の将来像、或いはアイデンティティーを全学的に共有するため、今年4月に提案したものです。

(5) 目標達成のために

さて、目標は立てても、肝腎なことは目標を実現することです。これには、ふたつの課題がございませう。

第1には、これらの目標を達成するためには、財政基盤をしっかりと確立することが不可欠です。毎年運営費交付金は減少し、政府の人件費削減計画があり、施設整備費は激減する一方、授業料等を上げることは出来ませう。従って、現在は各種の競争的資金の獲得に全力を上げ、かなり獲得してはおります。また大学内業務の合理化・効率化を図るマネジメント充実の努力、産学連携を強化して成果を上げ、研究費は自ら稼ぐ方向への努力を必死に続けているのが現在です。さらには、大学施設の貸し出し等有効利用、知的財産の活用、広く寄付を受け入れること、その他による自己収入増を、積極的に図っていく必要があるわけがございませう。

第2には、以上に述べました、大学を巡る環境条件の大きく厳しい変化や、大学が自ら変わるべき必然性を、教職員や組織が十分に自覚し、危機感を共有して自らの意識と共に教育研究運営の内容と方法について、必要な改革を早期にしていく必要があります。

特に大学はゲゼルシャフト、つまり機能体組織でありますから、各組織または各人の機能あるいはミッションを明確化し、その機能を最大限に発揮できるよう努力することです。中には相変わらず以前の意識のままや、既得権に固執するケースもございませうが、中期目標・計画に従って多くの教職員がすでに実践しつつありますし、今後とも必要な改革達成のために全力を挙げていきたいと思ひます。

以上、本学をめぐる状況と本学の目指す方向についてご説明し、今後の課題についても述べました。しかし、本学教職員の質は基本的に高いと私は考えておりますので、今後とも「実践的学術の拠点」構築を目標として、より輝ける大学になるべく努力を続けたいと考えている次第です。

以上のため、および大学の存在価値をさらに高めるためには、卒業生の皆様方のご指導・ご鞭撻、および各面のご協力をいただくことも不可欠でございます。

私からこれをお願いして、話を締めさせていただきます。本日はお招き頂き、有り難うございました。

資料【横浜国立大学の目標と目標達成のための指針】

人類の福祉と社会の持続的発展に貢献するために

「実践的学術の拠点」となる

1) 高度な教育と研究により人類の福祉と社会の持続的発展に貢献する

本学は、自由で自律ある学風の下に、実践性・先進性・国際性に優れた高度な教育と研究を行ってこれを広く社会に開放し、人類の福祉と社会の持続的発展に貢献する。

2) 世界に開かれた卓越の「実践的学術の拠点」となる

本学は、21世紀人類社会が直面する諸課題について、積極的にチャレンジできる実践的人材の教育、およびこれら諸課題の実践的研究をもって社会と共に歩み、この横浜の地に世界に開かれた卓越の「実践的学術の拠点」を形成する。

3) 実践的教育によって、優れた社会人を育成し世界的視野のリーダーを輩出させる

本学は、実践的教育によって学生一人一人を社会の中核を担って活躍し信頼される社会人に育てる。基盤教育と高度な専門教育を総合し、柔軟な創造力や思考力およびコミュニケーション能力等の素養と倫理性に優れた世

界的視野のリーダーの輩出を目指す。

4) 実践的・基礎的研究によって、21世紀知識基盤社会の発展に重要な役割を果たす

本学は、実践的で基礎的な知を質・量ともに創造して積極的に発信し、21世紀知識基盤社会の調和ある発展に重要な役割を果たす。全国および世界への貢献と同時に、神奈川県、横浜市などの地域社会との連携を重視し、その知的な基盤としての役割を務める。

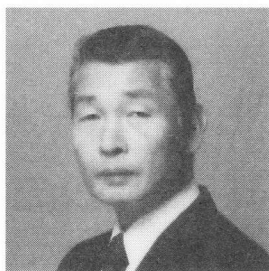
5) 社会からの期待に応える大学経営を確立する

本学は、社会からの要請を的確に把握し、国民から委ねられた資源を有効に活用しつつその活動を公開し、社会の期待に応える。このため自律的・効果的・実質的な実践的経営を確立して、如何なる事態にも存在感を示す大学とする。

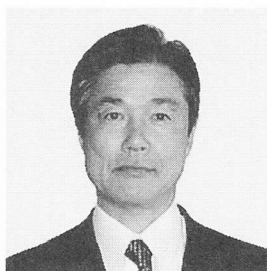
6) 教員・職員らが連帯して組織の役割を果たす、良好な大学環境を構築する

本学は、教育・研究・社会貢献に教員・職員間はもとより学生・卒業生らの共同参画を推進する。教職員が明確な義務と権限の下でそれぞれの機能を連帯して果たせる、質の高い実践的大学環境を構築する。

平成 18 年度合同総会・懇親会を振り返って



松本正和



武 繁春

平成 18 年度 総会・懇親会担当
松本 正和 (昭和 45 年応化卒)
平成 19 年度 総会・懇親会担当
武 繁春 (昭和 46 年応化卒)

統合を翌年に控え、平成 18 年度の横浜応化会、横浜電化・材化会、横国化学会三同窓会の合同総会・懇親会は 11 月 4 日 (土) 大学構内において開催されました。

現担当の松本と統合後担当の武の対話の形で振り返ってみました。

I. 総会・講演会・懇親会について

武 : ご苦労様でした。大変でしたでしょう。

松本: 毎年ですが、終ると正直ほっとしますね。

武 : 盛会でしたね。参加者が相当多かった。

松本: 前年比で三割位の増でした。でも私は不満なんですよ。天気は良かったし、それぞれ最後の総会じゃないですか、きっと去年の倍は来てくれるだろうと思っていましたから。

とは言うものの実はここ数年参加者は結構減少しているんです。

武 : 何が原因なんですか？

松本: 出席率の良かった世代の会員がより高齢化されたのと、こここのところ開催場所を横浜国大に固定してきたことが大きいと思います。

武 : 確かに国大は交通の便が良くありません。別の場所ではいけなかったのですか？

松本: それは統合を視野においていたからです。統合を考えると、次世代である学生に同窓会に目を向けてもらう、参加してもらうことが必要で、大学開催がベストだったのです。でももう統合は決定されましたし、学生会員制も決まりましたので、変えてもいいでしょうね。

武 : 総会は個別総会と合同総会があった訳ですが、合同総会は説明が非常に手際良かったですね。反対もなく統合、横浜国大工学部化学系同窓会 (略称: 国大化学会) という名称、会則、樋口新会長を始めとする諸役員が決まりました。

松本: 実はハラハラしていたんですよ。1 時間の間に三会一体化の要点、会則、保有財産、役員提案と承認、役員紹介、新会長の事業計画と沢山の議事

を消化しなくてはならない。それで皆さんにお願いして要点化を徹底していただいたんですが、特に会則などは全体が見えないうちに議事が進行してしまうのですから、お叱りがあるのではとハラハラしていました。司会の関先生始め皆さんがうまくまとめて下さいました。ただ、経緯の説明にありましたようにワーキンググループで十数回も審議を重ねてきたり、全体会で確認したりのプロセスがあって信任していただけたのだと思います。

武 : これで正式に三同窓会の一体化が決定された訳です。

松本: ところで飯田学長の講演会は如何でした？

武 : 昨年、一昨年と最先端の科学を判りやすく二人の先輩にお話いただいた訳ですが、今年は『国大の未来像を考える』という題で、国大の置かれている状況、目指すべき方向、種々の布石等のお話でした。聞きたいと思っていた話ですので、面白かったですね。

松本: 学長が工学部の同窓会で話されるのは初めてだそうですね。我々も何かできることがあれば…と考えてしまいますよね。ホームカミングデーとか同窓会連合で協力できることを考えましょう。

武 : その後は第二食堂に移動してお待ちかねの懇親会でしたが、盛会でした。お祝いの割り玉、飯田学長の乾杯、後半には記念品をターゲットのビンゴ大会もあり盛り上がりました。

懇親会そのものも、出身の会を越えて和やかに新旧学生の交歓が行われていたようで、良い雰囲気でしたね。

松本: 統合の記念色を出したかったのですが、成功したようですね。

ただアンケートはちょっと残念でした。ご高齢の方が多く、遠くからお見えの方も多いため、七時終了を決めていましたので、アンケートに時間が取れず、結果半数以上の方からお答えがいただけませんでした。大きな反省点です。

ところで、私は帰りのバス便の確認で会場を出てしまったのですが、ビンゴはどうでした？

武：女子学生のリードで進化したのですが、大いに盛り上がりました。

松本：直前に先生を通して、女子学生の方をお願いしたのが良かったようですね。

会の後ミニクラス会をしたのですが、一等賞品のカメラをゲットしたのがいましてね、びっくりしました。

武：大盛会のうちにお開きになった訳ですが、振り返って特にご苦労があったのはどんなところですか？

松本：ご苦労は学内の方々ですね。我々はアイデアは出しても実働はできない、ほとんどが先生・職員・学生の方々をお願いするしかない訳で、随分とご面倒をおかけしました。この場を借りてお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

松本：これからは新生国大化学会の総会・懇親会担当にバトンタッチです。宜しく願います。

ところでまだ決まったわけではありませんが、総会・懇親会の開催時期を6月以前にしようかという議論があります。今までの11月初めは、大学のホームカミングデーも加わり行事が立て込んでいるので、この時期を外そうという議論です。私は支持しています。

武：それでは準備を急がなくてはなりませんね。

松本：でも決まったわけではありません。今のところは心づもりだけでいいと思います。

II. アンケートについて

武：ところでアンケートの結果は出ましたか？

松本：別表にデータはまとめましたが、出席者のご意見と言いつけるには母数が半分以下なのが残念です。

武：マークシール方式でしたよね。

松本：ええ、前年度非常に有効だったものですから、アンケート用紙を予め配り、改めて懇親会会場で大きな表にシールを張っていただくというやり方を踏襲しました。時間不足とシールを会場に置いたのがまずかったようですね。

武：母数はどれくらいなのですか？

松本：Iの1は回答者全員がお答えいただけているとすると47名、IIの1の5)は同窓会誌ですからOBの方はほとんどご存知のはずが31名、出席者は

100名強ですから、半分以下それも項目により更に低いと考えられます。シールを貼らずアンケート用紙で答えられた10名の方も含めています。学生さんは26名でしたからもっと悪いですね。

武：でもそれなりの人数ですから方向性は…

松本：もちろんそれは問題ないと思います。前年度はかなりシビアな設問だったのですが、今回はIでは、**統合された同窓会に望むこと**、と少し漠然とした内容でご意見を伺いました。IIは大学からの要望です。

武：Iの1で、一番力を入れて欲しいことでは融和が群を抜いていました。

松本：やはり統合直後は内部融和に意を用いて下さいというご意見ですね。ありがたいことです。同項の、運営、大学との交流、会誌・HPの充実はほぼ同じような数値でした。

武：学生さんは当然学生支援が多かったですね。

松本：2の具体的にやってほしいことの一位もOBと学生の交流で、学生と現職教員を同窓会に入れてこそその統合、という我々の考えも分かっていたかのようにです。

二位は総会・懇親会の改善なのですが、実は項目全てを合わせるとほとんど一位に並びます。つまり総会・懇親会改善は優先事項と読み取れます。

武：はい、肝に銘じておきます。昨年のアンケートも参考にさせていただきます。

学生さんは就職支援が一番ですし、3の支援内容では学費援助と本音が出ていますね。

松本：3の面白いところは、学生とは逆にOBは教育援助をしてあげたいと思っているのですが、学生さんの希望はゼロです。今後の課題ですね。

武：IIの1でOBの皆さんがホームカミングデーとかOBと語る会を良くご存知なのはびっくりしました。

松本：本当にそうですね。会誌とかHPそれに総会等の情報を良く消化されているということです。我々もそういう皆さんを意識した活動をしなればいけませんね。

松本：昨年と違い、アンケートに象徴的な民意と言えるものはありませんでしたが、非常に参考になる意見をいくつもいただけたと思います。

今後に活用させていただきます。

武：私も今から勉強させていただきます。

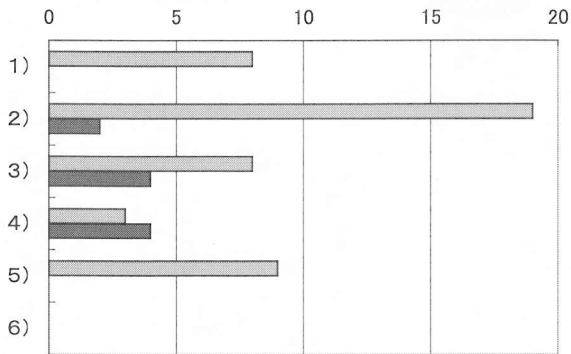
松本、武：今日はどうもありがとうございました。

アンケート結果

I. 統合された同窓会に望むこと

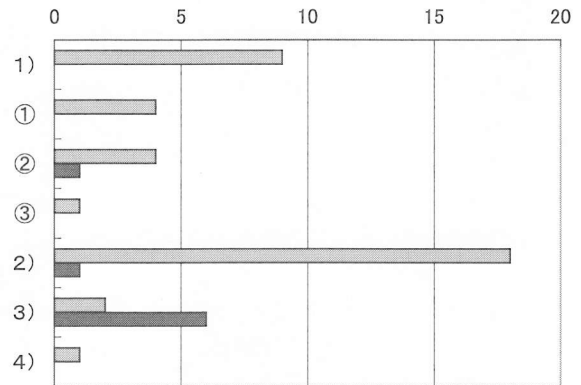
1. 一番力を入れてほしいことは何ですか？

- 1) 当面の運営
- 2) 会員間の融和, OBと学生間の融和
- 3) 大学との交流 (ホームカミングデイ等)
- 4) 学生支援
- 5) 会誌・ホームページの充実
- 6) その他



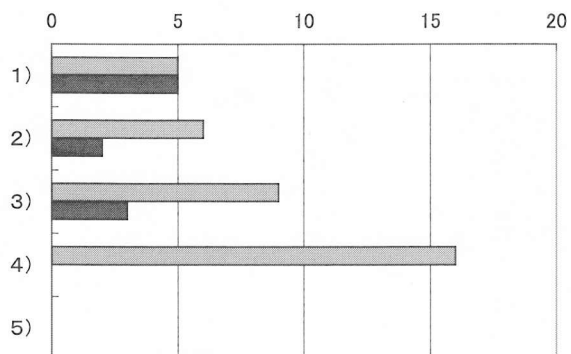
2. 具体的にやってほしいことを次の中から選んでください。(複数回答可)

- 1) 総会・講演会・懇親会の改善
 - ① 会場の変更
 - ② 開催時期の変更
 - ③ その他の希望
- 2) OB/ 学生交流拡大
- 3) 就職支援
- 4) その他 (具体的に)



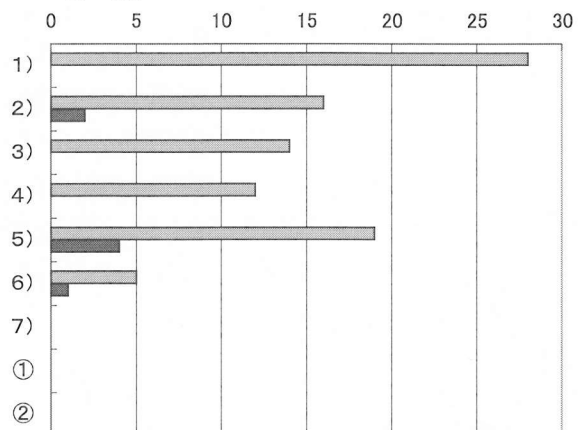
3. 同窓会としての学生支援にどのようなことを期待されますか？

- 1) 学費援助
- 2) 就職支援
- 3) 企業インターン等斡旋
- 4) 教育援助 (研究・技術面)
- 5) その他



4. 会誌・ホームページに何を望まれますか？

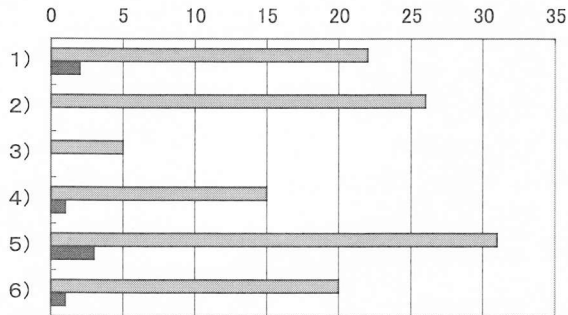
- 1) 大学の動向
- 2) 同窓会の動向
- 3) 会員の意見・随筆
- 4) クラス会等の懇親記事
- 5) 会員による技術情報・講演記事等
- 6) 学生投稿
- 7) その他
 - ① 会誌:
 - ② HP:



II. 統合化同窓会、大学、学生のトライアングルについて

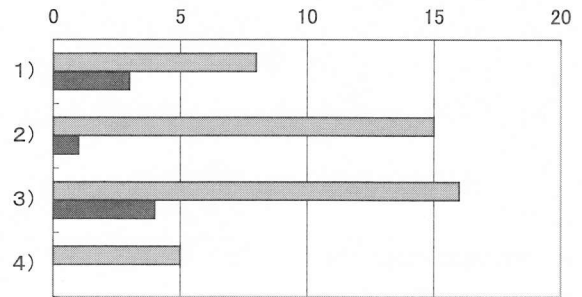
1. 以下の活動をご存知ですか？ご存知のものに印してください。

- 1) OB と語る会
- 2) ホームカミングデイ
- 3) 大学からの研究者登録情報の公開
- 4) 横浜工業会の学生奨学援助
- 5) 同窓会誌の発行
- 6) 同窓会のホームページ



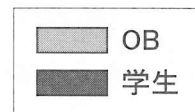
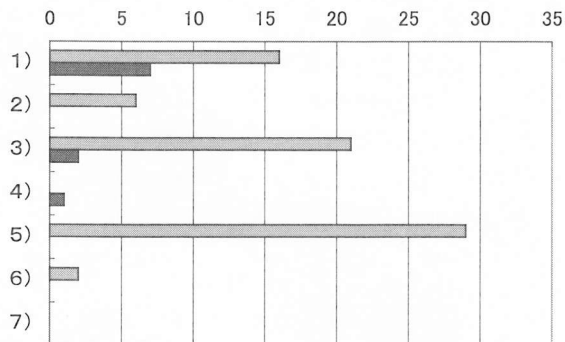
2. 現在の会費の納入率はどの位とお考えでしょうか？

- 1) 60% 以上
- 2) 40~60%
- 3) 20~40%
- 4) 20% 以下

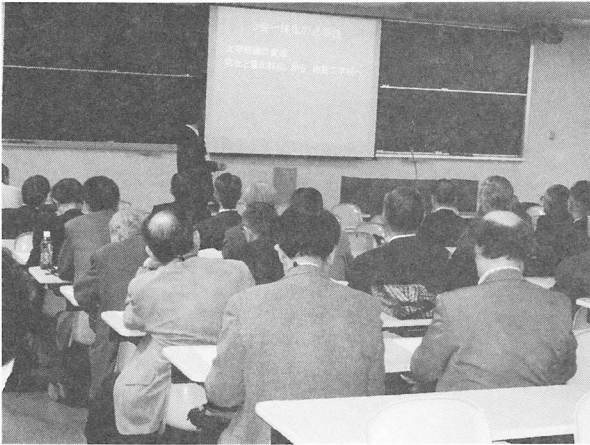


3. 卒業後大学に来る目的を次のうちから選んでください。（複数回答可）

- 1) 研究・仕事の相談
- 2) リエゾン等、学生の就職勧誘
- 3) 恩師、同窓生や後輩に会うため
- 4) クラブ、サークル活動
- 5) 同窓会の活動
- 6) 来る予定はない
- 7) その他



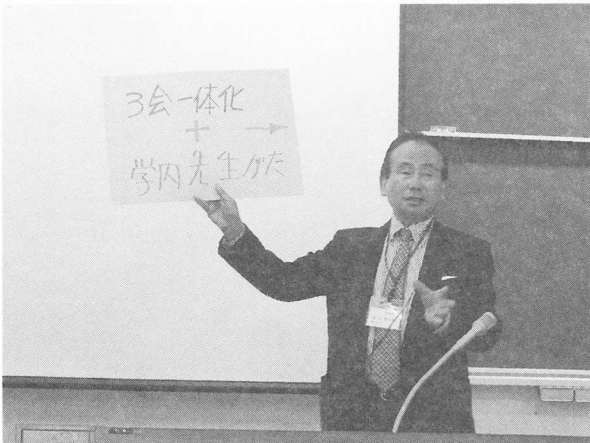
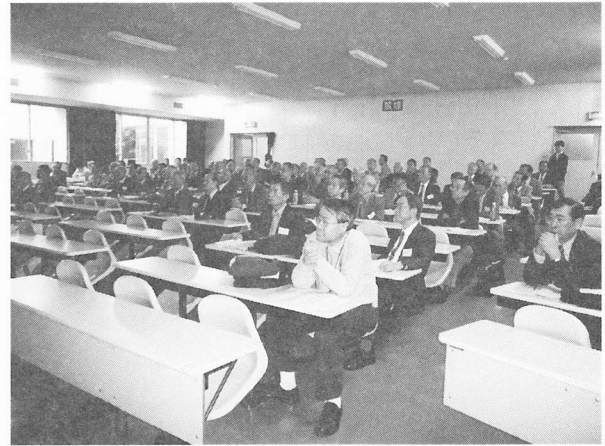
三会同総会



三会を代表して横浜電化材化会米屋会長が挨拶

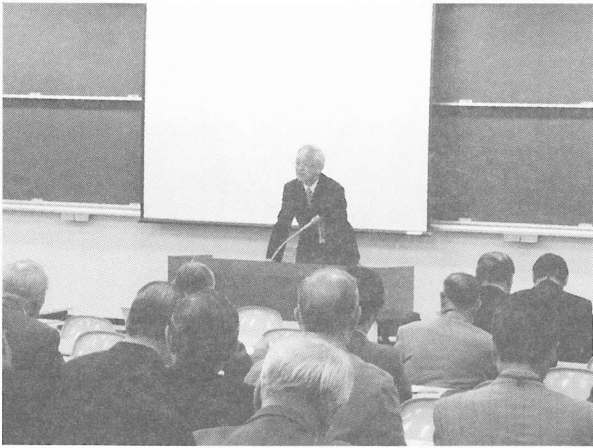


左から、横浜応化会樋口会長、横浜電化材化会米屋会長、
横国化学会禅会長、物質工学科化学系主任鈴木和也教授



挨拶する樋口新会長





講演する飯田学長



合同懇親会にて



新会長、新副会長らによる“くす玉割”風景



横浜工業会常務理事 山口 惇 様 による挨拶



横浜国立大学工学研究院長 国分 泰雄 様 による挨拶



学生達



ビンゴ大会風景